

牡鹿半島の子を ブラジルW杯に招待し隊 プロジェクト

Smile for Nippon

トモにブラジルへ実行委員会

Smile for Nippon

2014/5/30版

牡鹿半島を支援する理由



2013/12/28
チャリティマッチ招待バスツアー

公共交通機関が少ない。電車がない。車を使っても仙台から往復5時間以上かかる。沢山の浜が点在している。人口が少ない。。などの理由からでしょうか。3年経つ現在でも、僕らが通う他の地域と比べて、支援／関わるボランティア団体も少ないです。

当初、大原小学校と谷川小学校の全生徒で自宅から通えるのは5名、と先生に聞きました。がれきを避けながら入学式を迎えた子ども達は、いまなお仮設住宅で暮らしています。

サッカー部(少年団)がないため、チャリティマッチでさえもサッカー協会から招待の声はかかりません。

代わりに私たちが、サッカーを中心とした支援活動を行ってきました。「縁」です。



2013/8/14
日本代表戦招待バスツアー



2012/12/25~26
国立競技場、浅草&スカイツリー招待



2012/11/23
ブラインドサッカー体験会



2011/12/3
ユアスタ招待バスツアー

一人一人に寄り添い

「みんな、声出そう。くない彼らを「サッカーのタオルを振ろう。イエーイ 力で元氣付けよう」と仲間！」。昨年12月3日、仙台と企画した。

市のサッカースタジアム。バスで2時間の仙台へ。柏市に住む角田寛和さん（49）は、客席の子もたちを奮い立たせようと懸命だ。ちよんまげのカツラに「サムライ・ブルー」のよ長も心配そうだった。

の応援では世界中を駆け巡り、サポーター仲間からちよんまげ隊長と呼ばれる。この日は、東日本大震災の被災者支援で、宮城県を地元へガルタ仙台のJリーグ最終戦に招待した。浜

「サムライ・ブルー」のよ長も心配そうだった。の応援では世界中を駆け巡り、サポーター仲間からちよんまげ隊長と呼ばれる。この日は、東日本大震災の被災者支援で、宮城県を地元へガルタ仙台のJリーグ最終戦に招待した。浜



心に太陽を
持って

④

「サッカーの力」牡鹿の子らに

れた。と支援の輪が予想以上に広がった。

「よし僕はサムライだ」と、さっそくちよんまげのかつらをかぶりスタンディングをからしたところ、サポーターたちは大喜び。ライバルの中国人までエール交換に「笑顔は人をつなげる」と実感した。自家製よろいもそろえ、同じ姿で応援する「ちよんまげ隊」の仲間も増えた。

震災支援も「個人応援」のスタイルを踏襲した。3月下旬「被災地で靴が足りない」と聞き、運動靴200足を持って宮城県へ。支援が遅れていた牡鹿半島を訪れた。肌寒い体育館で寝起きする子どもたちの姿に、小学3年の娘が重なる。おされ気味だった子どもたちも次第に体を動かした。

中古の洗濯機などをサポーター仲間と資金を出し合い運ぶなど継続的に支援を始めた。フットワークの軽さとユーモアを交えた語り口の気安さが共感を呼ぶ。インターネットで「スマイル・フォー・ニッポン」のページを設置し、発信する

れど……楽しい思い出も作らなきゃ。勇気が湧いたと話した。帰路のバス。隊長の娘が通う柏市立高柳西小の児童がしたためた手紙を渡された子どもたち。車内は人気テレビドラマの主題歌「マル・マル・モリ・モリ！」の大合唱になった。

昨年17回目の牡鹿半島訪問では、漁師らと歌合戦を楽しんだが、復興への厳しさを考えると、時に無力感に陥る。「あえて八木を見て森を見ず。一人一人に寄り添うことが大切」。今後も「個人応援」にこだわった。

「また来ました」。隊長が仮設の食堂へ入ると「ああ、千葉の殿さま、寒いからしゃ、温まって」と声がかかる。「僕、足軽ですけど。ごちそうになりませう」。そんな会話が、被災地の空気を和ませ続けそのうだ。

【武田良敬】



試合前、牡鹿の子どもたちにクリスマスプレゼントを渡す「ちよんまげ隊長」(左) 仙台スタジアムで、昨年12月3日

サッカーの力で大きな夢を。



震災から4か月経っても復興が進まず支援も少ない場所があると聞き、2011年7月13日初めて宮城県石巻市にある牡鹿半島へ行きました。

そこで見た風景が今でも忘れられません。周囲は手つかずのがれき、「同じ日本とは思えない」と憤りさえ感じる状況の中、僕らはお菓子と元気を届けに行きました。半島には店が1軒しかなく、交通網の復旧も遅れ、その不便さから転校する児童もあり、生徒数は半分以下に減りました。それでも机の上には教科書、ノートが開かれ、しっかり勉強し、先生方はユーモアを交えて子ども達と接し、教室には笑い声が響いていました。大変な環境にも関わらず、皆さんからの「ありがとうございます」に涙をこらえるのに必死でした。この時頂いた沢山の「ありがとう」が今も僕らが支援を続ける理由だと思います。

みんなの力、サッカーの力を貸してください
※毎日新聞▶

企画内容

●企画趣旨

- ① 牡鹿半島在住の子(13～18歳)をブラジルW杯日本戦に招待し、感動・興奮・世界との一体感を体験。
- ② サンパウロ日本人学校の協力による現地の子との交流。
- ③ 牡鹿半島の代表として、ブラジルからの支援に対し感謝を伝える。
- ④ 帰国後に体験報告会を実施。ブラジルW杯体験記を能田達規先生にマンガ化して頂き牡鹿半島に住む全ての子どもに配布。
この経験を皆で共有する。
※能田達規さん 代表作は「ORANGE(週刊少年チャンピオン)」他、サッカー漫画多数。石巻の小学校で漫画教室を行いました。(写真下)
- ⑤ 日本時間6月15日の日本代表初戦を牡鹿半島で屋台村付観戦会の開催と東京発バスツアーも企画。
ブラジルに行った友達との一体感を体験。
- ⑥ ブラジル在住の子ども達に感謝のTシャツ300枚を配る。

牡鹿代表として**世界と東北を結ぶアンバサダー**(親善大使)の役割を担ってもらいたい。

子ども達に、日本だけでなく、世界中の人びとが東日本大震災に心を寄せていることを知ってもらい、自分たちが前を向いて進んでいることを表現してもらいたい。

●選考結果

「私(僕)の夢」「ブラジルに行って自分が変われると思うこと」

をテーマにした作文で子ども達の募集をしました。

能田達規さん(漫画家)、岩本義弘さん(サッカーキング編集長)、
中田麻衣子さん(宮城県出身女子サッカー選手。現 岡山湯郷ベル所属)の
3名が選考を行い、4名の子どもの招待が決定しました。

- 後援 アレナトーレ インリーソーラー 愛媛新聞 サッカーキング
スポーツマンシップアジア 松山記念病院
2014年ブラジル大会サポーター村をつくる会



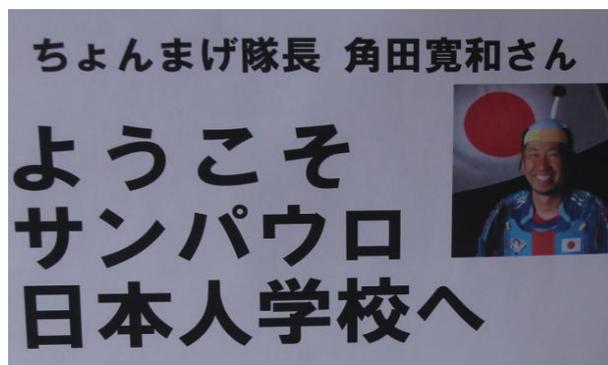


● ちょんまげ支援隊の思い

私たちは、「サッカー仲間を通じて被災地の力になりたい」と集まった草の根のグループです。これまでに被災地支援を60回近く行っております。世界中が注目するブラジルW杯を生で観戦することで、その場、その瞬間にしか体験できない感動や一体感を味わって欲しい。NPOでもなく、大きなバックボーンを持たない私たちがこの企画を実行することで、閉塞感に包まれている被災地への「みんなで協力すればできるかも。やればできるかも。」というメッセージになればと「トモにブラジルへ実行委員会」が発足しました。

● スケジュール

- 6/11(水) 出発
- 6/12(木) リオデジャネイロ日本人学校と交流&ホームステイ
- 6/13(金) リデジャネイロ観光
- 6/14(土) 日本×コートジボワール戦を観戦(スタジアム往復は貸切バス移動)
- 6/15(日) アチバイア市でブラジル人と交流&サンパウロでホームステイ
- 6/16(月) サンパウロ日本人学校と交流
宮城県人会と親交の深いドンボスコ教会でブラジルの子ども達とランチ
- 6/17(火) 現地出発～翌18日(水) 日本到着



昨年6月ブラジル日本人学校2校を訪問し現地での受入れを快諾頂きました。ポルトガル語のサポートも有



協賛のお願い

1人あたり
45万円～
+屋台村つきPV
目標200万円

個人協賛： 一口 ￥3,000～何口でも

特典： 子ども達のブラジル体験を撮影した長編ドキュメンタリーDVD(9月中に発送予定)

団体協賛： 一口 ￥10,000～何口でも

特典： 子ども達のブラジル体験を撮影した長編ドキュメンタリーDVD(9月中に発送予定)

+ 映像の最後に希望の団体名が流れます

個人・法人ともに二口以上でブラジルW杯体験マンガ贈呈!!

協賛方法

- ①協賛登録フォームより、必要事項を記入してください。
- ②フォームに記載してある指定口座にお振込みください。
- ③最大4名招待する予定です。
- ④1次締切4月末日 2次締切5月末日

ご協賛いただきました方には会計報告をいたします。

お問い合わせ： smilefornippon@gmail.com まで

協賛登録フォーム



<http://goo.gl/Qm7Gix>

お願い

震災から3年が経ち、被災地がメディアに露出する機会が減ってきています。世界中が注目するW杯へ子ども達を招待し、そのことをきっかけに再び被災地への関心に繋がってほしいと考えております。多くのメディアの方に関心を持ってもらい、取材して頂き、発信されることを望みます。大きなスポンサーを探すのではなく、様々な方に協力していただけるように協賛を募ることにしたのも、関心の輪を広げたいからです。

津波で閉校した谷川小学校に立ちすくむ一平



※協賛だけではなく、グッズ販売などの収益を充当する企画も同時開催します。
多様なチャネルを用意することで、沢山の方を巻き込みたいと考えております。



【牡鹿の反応】中学校の先生より
「ぜひとも子ども達をブラジルに連れて行ってほしいです。何人まで連れて行っていただけますか？」と、問い合わせがありました。

最初の段階では1～2名で調整をしておりましたが、学校・生徒からの期待に応えるべく、

実現へ向けてご協力をお願い致します。

※4/27時点で4名の招待が決定しました。ご協賛ありがとうございました。

ご質問

Q1: 学校を休ませるのか？

牡鹿半島の中学校とは今までのバスツアーで信頼関係を築いてきました。
日本戦第二戦はスポーツ大会、第三戦は中間テストがあるので、
第一戦なら可能ということで、事前に内諾を頂き企画しました。

Q2: 数人だけを連れて行くのは、不公平ではないか？これだけのお金があったら…

これまでもバスツアーなど、被災地の子ども達をスマイルにする活動を8回行って参りました。
これからもその活動は続きます。今回は、大人数の招待だと安全面で問題があるため、
1～4人を選考して、牡鹿の代表として行ってもらうという企画内容にいたしました。
使途(目的)を明確にすることで、お金の使い道にご理解頂けると思っております

Q3: 何人いけますか？募金の期限は？

4月末の募金額と予定募金額で、招待人数を決定します。
5月末までは募金受付をする予定です。
万が一、中止となった場合には、振込手数料を引いた額を返金します。(少しお時間いただきます。)
目標額を超えた場合には、牡鹿半島の子ども達のための屋台村付観戦会や、
2014年に3回予定している被災地の子ども招待バスツアーに使用させていただきます。

Q4: ブラジルの治安は大丈夫？

懸念事項として治安の問題があります。しかし、去年6月に現地調査した際、
邦人がこの10年間に凶悪事件に巻き込まれた例はありませんでした。
加えて、現状では外務省の自粛勧告指定にもなっておりません。
出国から帰国まで、添乗員が全行程で同行いたします。
観戦の往復には送迎バスをチャーターしました。現地駐在者のサポート体制も出来ております。

あなたのチカラを貸してください

トモにブラジルへ実行委員会